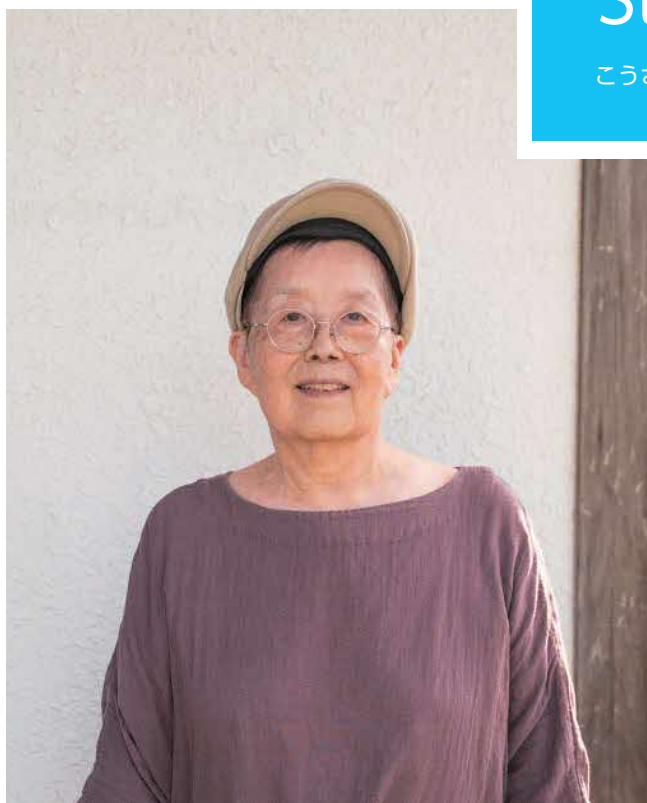


福島 露子さん
Tsuyuko Fukushima

〔浅井区〕

絵を描く合間にも刺子や縫い物、以前から続けている俳句も楽しみたいとアクティブな福島さん。福島さんの受賞作品『秋』は、11月26日(水)～30日(日)に県立美術館分館にて展示予定。

「好き」を重ねて後悔しない 今を描き人生も絵も私色に

50年間油絵を描き続けている福島露子さん(浅井区)の油彩『秋』が、(株)熊本日日新聞社主催の美術公募展「くまもと『描く力』2025」で、ふるさと部門の最高賞「ふる

さと賞」に選ばれた。

普段は卓上静物画を得意としている福島さん。今回入選した作品『秋』は、鶉ノ瀬堰から望む甲佐岳をモチーフにした風景画。山や木々が大胆

な線で描かれ、秋のぬくもりを感じる色が重ねられている。福島さんは、「数年かけて少しずつ手を加えながら完成させた力作です」と顔をほころばせる。「最初に描いたときは、どこかしっくりこなかったんです。でも形にとらわれず、自分の好きな色で塗り直すうちに、だんだん思い描く風景に近づいていきまし

た。無垢な気持ちで筆を動かせたのが良かったのかもしれないね」と振り返る。

福島さんが絵に魅せられたのは、子どもの頃。中学生のときに美術教師・本田建二郎先生に習い、絵の世界にのめり込んだのがきっかけ。その後三十代で本田先生が主宰する絵画クラブに参加し、本格的に油絵を学び始めたという。

長く筆を取り続けられる理由を尋ねると、「それは絵が好きだからですね。描きたいときは毎日でも描きますが、今はいろいろやりたいこともあるので、好きなことを楽しみながら、自分のペースで続けるのが長続きのコツかもしれません」と穏やかに笑う。

登山も趣味のひとつで、「山の匂いに包まれるのが大好き」と話す福島さん。自然の中で感じるインスピレーションが、作品づくりの原動力になっているようで、「今後は人物画にも挑戦してみたい」と話す福島さん。苦手だと思っていたことにも果敢に挑みながら、「好き」を追い続けるその姿勢の先には、これらの人生を彩る新しい風景が広がっている。



ご自宅に保管されていた青い瓶をモチーフにした作品。丸みをおびた瓶と対照的な三角の直線。じっと眺めていると色の動きもあっておもしろい。